新型コロナウイルスの

っかり確保して並んでい シャルディスタンスをし や30秒の手洗いも定着し 車などはもう見当たらな た。握手もそんなにしな っていた新潟ナンバーの はもともと少ない。ソー 本人は言われたことはよ くなる。それにしても日 ステッカーを添付して走 ざわざ「群馬県在住」と うちマーク」と並んでわ 後部座席のガラスに「お たぐ移動自粛要請が全面 流行に関連した県境をま がる生活様式は家の中に ない。靴を脱いで家に上 てきたし、大声で話す人 く守る。せきエチケット 解除になって20日余り。 ハグは生活習慣に

青柳 群馬県建設業協会 会長

の2か月以上地方から感 とも言える。それでもこ ともに育ってきた国民性 わらかい環境が住環境と

始まった。

的な引き上げもここから

る時代は違う、何もしな

を経験した後にやってく 可能性のある当事者感覚

染者がほとんど出なかっ

り前のような暗い雰囲気

ン風邪などの疫病対策と

らない。ペスト、スペイ

いでずるずると元には戻

下がり続けるのが当た

由自在になる。「はなれ モジュールに合わせて自

つながる」日本のや

が、現場で働く人たちの 格の引き上げもそうだ

「設計労務単価」の政策

や障子、欄間の日本家屋 い。もっと言えばふすま ウイルスを持ち込みにく

は換気とついたてが畳の

されだした。調査基準価 業が「良い意味で」注目 災・減災のための公共事 される。この年を境に防 えていたことが思い起こ

っていた。

紙のインタビューで「中

予算が組まれた時、専門 カ月予算として大型補正

然だった。右肩上がりの 待する声が高まるのは当

身が問われる時代」と答

べてだった時代に戻ろう 事業量とともに結果がす

ーシャルディスタンスや

くいとはいえ、朝礼のソ

工事現場は密になりに

でも経験していた。

剛

か月だった。戻る気持ち うな気持ちになるのは仕 動がなかったことの効果 安倍内閣誕生とともに15 といえば、2013年に な気がしてならない。 たのは、県境をまたぐ移 万がないほど、不安な3 ようやく元に戻れるよ 疫病対策の「見える化」 になっていた状況からの これからは人からコンク 大きな転換点だった。公 リートだ」と、安易に期 までもが変わってきた。 弊し続けてきた業界。 共投資の削減によって疲 だ。それどころか風向き 「ようやく元に戻れそう ともに都市デザインまで る作業員の中から「発熱 変わってきた。緊急事態 報が入る度に、ピリピリ 者が出た!」といった情 況には誰も戻りたくな 宣言期間中の重苦しい状 した雰囲気をどこの企業 0 毎日数多く出入りす

われる時代」のことを言 持ちを込めて「中身が問 とする動きに、 ならないぞ」といった気 誰もが感染症にかかる 「そうは 策が挙げられる。政府の 勤時の車利用時の換気要 請など建設現場なりの対 休憩所の時間差利用、 動きと連動して2月の末 诵 テラス席での食事とい た安心感が人を呼んで アルコール消毒の設置や ク姿はもちろん、 電動

る。 自然災害と感染症対策は もない。結果がすぐ出る 意識が続くことの差であ いつまでたっても当事者 馬建協の感染症対策のタ イムラインは終わりそう から記録し続けてきた群 長引く時間が業界そのも のを変えていく力にな り、元に戻るどころか、 システム (CCUS) は 2日制も形になってき そのものだった。生産性 向上」と「働き方改革」 た。建設キャリアアップ の2割アップのためのi れる時代」は「生産性の onが広がりだし、週休 それこそ技能労働者のキ -Constructi 建設業の「中身が問わ

るが、従業員全員のマス 年の100%をあっとい 動きだした。県内移動だ 禁になって本格的に人が だそうだ。車移動で平面 駐車といった手軽さもあ 中でも近くの道の駅、例 人があふれ出している。 人の数が違う。温泉地も けだった期間と比べ車と う間に超えた入り込み客 県境をまたぐ移動が解 やってきたと言えよう。 る影響はあまりにも大き を裏返してみれば、今度 右する。日本人の国民性 われる今回の疫病が与え は組織の内外から厳しく 彫りにする。100年、 化」が企業の将来性を左 い。「疫病対策の見える ャリアパスの中身を浮き いや200年に1回と言 中身が問われる時代」が